

水耕栽培装置を開発

部品検査機器設計のメックシステム



北川修社長

同社は、さまざまな温度で部品の耐熱性を測る検査機器の製造に、温度管理などの技術を搭載。主力事



開発した水耕栽培装置「めぐみ」

省スペースで効率よく

自動車部品の検査機器などを設計・製作するメックシステム（本社名古屋市中区落合町187、北川修社長、電話052・901・5138）は、水耕栽培装置「めぐみ」を開発した。省スペースで、効率よく野菜を栽培できる。自社開発の操作パネルやファンを取り付け、最適な栽培環境を保持する。東海3県の飲食店に訴求し、5年で30台の販売を目指す。（酒井田梨史）

飲食店に提案 5年で30台販売目指す

業で培った技術を生かし、事業再構築補助金を活用して製品開発に乗り出した。

めぐみは、昨年6月から受注生産で販売している。

3段構造で、苗を植えるための穴が1段あたり29カ所開いている。下部には水や培養液をためたタンクを収

再構築

明日の企業像を創る

納しており、ポンプで吸い上げて各段に供給する仕組み。

サイズは、幅70センチ、奥行き55センチ、高さ160センチ。比較的小さな作りで、場所を取らないコンパクトさが特徴だ。

性能が異なるノーマルタイプとハイタイプの2種を用意。どちらにも外側に操作パネルがついており、装置内の温度や湿度、二酸化

炭素濃度の確認や、照明の照射時間の設定ができる。ハイタイプには、装置内にファンが取り付けられ、装置内外の空気を循環させることで温度や湿度の調整が可能。野菜にとって最適な環境を作り出し、成長スピードを速めることができる。

価格は、ノーマルタイプが98万5千円（税別）、ハイタイプが148万5千円（税別）。

主に、サンチュやバジルなどの葉物野菜の栽培を想

定し、焼き肉店などの飲食店に訴求。店舗の内装に合わせ、装置外観のデザインを変更することも可能だ。担当者は「来店客自身で痛み取るシステムにすると視覚的にも面白く、鮮度の良さもアピールできるので」と話す。

今後さらなる改良を進め、機能性の向上やコストダウンをめざしている。北川社長は「コストダウンし、定価80万円で設計したい」と意気込み、手に取りやすい価格で拡販したい考え。

2023.3.6

中部経済新聞に掲載